

大道理かわら版 むくろじ

まんが塾生の若者6名、大道理に来たる！

二〇一六年四月。大道理地区に男性三人、女性三人の六人の漫画家志望の二十歳代の若者が移住して来られました。住まいは男性陣、女性陣とそれぞれ家を借りて共同生活を送ってられます。



【樹本先生と6人の漫画塾生】左から樹本先生、切戸章平さん、原田晃太郎さん、矢尾聡一朗さん、坂井月美さん、田中美樹さん、小池香菜絵さん

【漫画塾生六名、ご紹介！】



小池さんが描いた切戸さん似顔絵

メンバー中、一番年長の切戸章平（きりと しょうへい）さん

「漫画を描き始めたのは、六人の中では僕が一番遅いと思います。YICキャリアデザイン専門学校でデザイン科の卒業生ですが、在学中は画家を目指していません。卒業後、二十歳で個展を開いたのですが、（それまで進んでいた方向性に）違和感を覚えました。それから漫画を描くようになり、一年半かけて一本描きました。初めて描いた作品を樹本先生に見て頂いたところ、厳しい評価をされましたが、先生には漫画家として影響を受け、大変お世話になっています。

大道理地区への移住は、樹本先生から声をかけて頂き決めました。移住するまでは山口市で一人暮らしをしていましたが、生活は全く変わりました。

こちらの六名の皆さんはどのようなかきつけで大道理地区への移住を決めたのか、それから漫画家を志したきっかけ、大道理地区に移住してからの生活、そしてこれからの夢についてお話を伺って来ました。

発行元
大道理夢求の里交流館
運営協議会
TEL: 0834-88-1830
平成28年
8月1日号
(No.14)

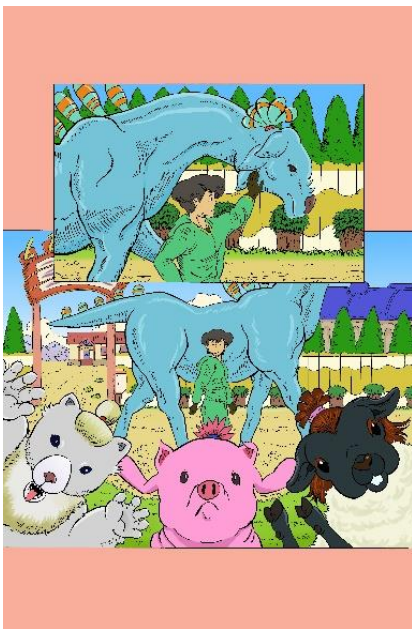
移住後の生活の変化



大道理地区の世帯数と人口

世帯数	192世帯
人口	398人
男性	183人
女性	215人

(平成28年6月30日現在)



▲切戸さんの作品

食事は男子三人交替で作っています。大道理地区に移住してから朝は自然に目が覚め、毎日が充実していき気持ちが良いです。一人暮らしの時は部屋にこもって漫画を描くという毎日でしたが、移住してからはほかのメンバーから刺激を受けていて、良い環境に身を置けていると感じます。一日の生活の中で、漫画は7時間くらい描いていて、それ以上描く日もあります。描いている漫画のジャンルはアクションものが主です。ストーリーはこういうシーンを描きたいという核になるものを決めて、そこから描き始めます。



農業風景



▲芝桜まつりのうどん屋さんでの漫画塾生の接客風景です

漫画を描くには五感で感動する体験が大切な糧になります。（取材した日はたい肥づくりをされたとのことでしたが）農業をさせて頂くなど毎日が新鮮で楽しいです。

移住後すぐに里の案内人の兼平さんから声をかけられ、地域に貢献したいと思い、芝桜まつり会場でのうどん屋さんで接客、受付、会計のお手伝いの仕事をして、皆ソフトクリーム作りが上手くなりました。



▲男性三人の職場の風景です！

現在、そしてこれから

現在、周南市から依頼された仕事などをしています。依頼されたことに応えられる作品作りを心掛けています。大道理に移住して共同生活が始まり、ここからが漫画家としてのスタートです。漫画で生きていきたいです。



小池さん作ご自分の似顔絵

小池香菜絵（こいけかなえ）さん「子どもの頃から絵が好きで、毎日描いていました。



▲小池さん職場での近景です

読んでいた漫画の世界観は心がワクワクするもので、自分のワクワクする世界を人にも見せたい、という思いで漫画を描いています。投稿している漫画雑誌は少年誌で「月刊少年ガンガン」と「月刊少年サンデー」に投稿しています。



▲小池さんの作品

「月刊少年ガンガン」で努力賞を頂きました。作品づくりにはドキドキする要素を入れることを大切に、自分の興味が沸いたものを深く掘り下げて描いています。

樹本先生とのお縁は高校時代から、漫画塾の塾生になり、YICを卒業してから大道理に移住するまでの間に樹本先生のご自宅に一年半住まわせて頂きながら指導して頂き、漫画漬けの毎日を送りました。

大道理に移住して間もなく、タケノコ掘りを楽しみました。周南市戸田出身で、タケノコ掘りの経験はありましたが、久しぶりに自然に触れてとても楽しい体験でした。



▲タケノコ掘り！左から切戸さん、矢尾さん、田中さん、小池さん

自然に囲まれた生活の中で...

私以外の女子二人はタケノコ掘りが初めてでしたが、楽しんでいて、一緒にこういう体験を楽しめるメンバーで良かったなあと感じました。三人での共同生活を日々楽しんでいきます。



小池さん作矢尾さんの似顔絵

矢尾聡一朗（やおそういちろう）さん「YICキャリアデザイン専門学校を今年（平成二十八年）春、卒業したばかりです。

漫画家は中学二年生で志しました。本格的に描くようになったのは十八歳、専門学校に入学してすぐ描き始めました。漫画はコミカルなものが好きで楽しく読める作品を読み漁りました。僕は「週刊少年サンデー」に投稿して、担当さんが付いています。作品のジャンルにはこだわらず描いています。

昨年七月に描いた作品は科学と魔法とが両立する世界の漫画を描きましたが、出来上がるまでにとっても時間がかかりました。樹本先生に見て頂いて、相談しながら修正を加えて加えて仕上げました。



▲矢尾さんの作品

大道理へ来るまでは自炊経験ゼロでしたが、共同生活の中で料理を作り始めました。初めての共にごく楽しいです。農業は周りの方のお手伝いなどから始めていることを知って、自分たちの手で野菜作りをしていきたいです。

僕の両親は漫画家になるには東京に行く必要があるという考えがあつて、大道理に移住して漫画家になるという話をした時、理解してもらうには説明が必要でした。

自分の中に蓄積したものが無いと作品作りは出来ない、小説を読んだり、映画を観たりという生活を生活の中に取り入れることを大切にしています。樹本先生は七本連載を持たれていたのであるというのですが、僕も連載を何本も持つて、仕事をバンバンとれるようになりたいです。

作品作りは自己満足なものでなく、担当さんからアドバイスされたことに柔軟に感じられる姿勢で、求められるものに応える形で描いていきたいです。大道理地区に移住してから地域の皆さんに助けを受けていることに感謝しています。漫画家として成り立って必ず恩返しをします。



池さん 作
小原田さんの似顔絵

原田晃太郎（はらだこうたろう）さん、二下関市で生まれて、山口市で育ちました。物心ついた時からイラストを描いていました。

高校一年生の時、絵の上手な先輩を見て自分も漫画を描いてみたくなり、描き始めました。手塚治虫さんなどの影響を受けて、「生きる」という深いテーマが根底にありつつも、電車に乗っている時間などに電子書籍でさらっと読めるよう、コミカルな要素も入れた作品作りをしています。漫画の描き方としては、線を描くまでは手で描いて、それからパソコンで描いています。



原田さんの作品

漫画以外にミュージカルのポスターを作ったり、ゲームを作ったり、電子書籍を出したり、デジタル技術を使った、漫画以外の分野での作品作りもしています。「Comic」という、パソコン、タブレット端末、スマートフォン等で漫画を読むことが出来るアプリに投稿した漫画で受賞しました。漫画での作品作りでは、キャラクターの設定や、やりたいこと、描きたい事はすぐに決まります。

手塚治虫さんの影響を受けたためか、担当の方から絵柄が古いので、新しい感じにするように言われています。手塚漫画が自分のベースにはありますが、現代の若い子たちが何を感ずて生きているかを考えながら作品作りをしています。大道理地区へ移住してから、周囲の方からの支えを感じていてありがたいなあと感じています。恩返しできるようにがんばります。



池さん 作
小坂井さんの似顔絵

坂井月美（さかいつきみ）さん、「春原ロビンソンさんのギャグ漫画のストーリー」に影響を受けました。

YICキャリアデザイン専門学校に入学する前は、イラストを描く仕事も良いなと思っていましたが、漫画科でのクラスメイトの作品を見て、漫画も楽しいと思えました。専門学校に入学して、一年の終わりに二年の始めごろ、樹本先生や色々な先生に指導して頂いて漫画を描き上げました。作品作りではキャラクターの可愛らしさを重視して、ストーリーには、ほのぼのとした雰囲気を持たせるようにしています。漫画を描く時にはまず、ネーム（※漫画を描く際、コマ割り、コマごとの構図、セリフ、キャラクターの配置などを大まかに表したものをウィキペディアより抜粋）を描いて、担当編集者の方と話し合いながら作品づくりを進めます。この時、担当の方からは具体的に改善点等を指摘して頂いています。



坂井さん仕事場での風景です

コマごとの構図、セリフ、キャラクターの配置などを大まかに表したものをウィキペディアより抜粋）を描いて、担当編集者の方と話し合いながら作品づくりを進めます。この時、担当の方からは具体的に改善点等を指摘して頂いています。



坂井さんの作品

大道理に来て良かったと感じることは沢山あります。皆さん優しく、元気にあひさつして下さり、交流出来て楽しいです。沢山の方とお話して関わりたいです。これから漫画家として、連載を持って何年も続くような作品を産み出していきたいです。



池さん 作
田中さんの似顔絵

田中美樹（たなかみき）さん（六人のメンバー中、唯一少女漫画を描かれています）。「光市出身です。小学生の時に漫画が好きになり、漫画家になりたいと思いました。



仕事場での田中さん

もりちかこ先生の漫画を読んで漫画家にあこがれるようになりました。十九歳の時、少女漫画雑誌「ちゃお」に初めて作品を投稿し、今年の始め、受賞しました。自分の名前を見つけた時はとてもうれしく、両親も喜んでくれました。作品を作る時は先にキャラクターを考えて、ストーリーを考案して書いていきます。話を考案して作品を産み出すまでは大変です。作品は泣けるものというよりは、読んで心が癒される感じのものを描いています。



▲田中さんの受賞について掲載されています！



田中さんの作品

共同生活は初めてのことでありますが、一緒に暮らしているみんなはとても良い人たちで、心強く、楽しく生活しています。みんな同じ目標に向かってるので、頑張らないと、と思います。少しでも早くデビューして、連載が持てるようになります！

夢求の里交流館からのお知らせ

ミニサロンのお知らせ

日時：8月10日（水）
13時30分～16時
場所：大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者：男女年齢問わず
備考：ご希望の方は、送迎をいたします

サロンのお誘い

日時：8月24日（水）
10時30分～16時
場所：大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者：男女年齢問わず
備考：ご希望の方は、送迎をいたします
★午後三時頃 道の駅ソレーネ周南「移動販売車」来館予定です！



編集後記

今回のむくろじは今年の春に大道理地区に移住された「漫画塾生」六名の皆さんについて全面で特集しました。個人的には芝桜まつり会場で受付をしていた時に漫画塾生の方が「両替してください」とエプロン姿で来られて、「いよいよ大道理に移住されたんだなあ」と実感したことを思い出します。こちらの漫画塾生の皆さんが漫画家を志したきっかけや、大道理にいられたことなど、大道理地区の皆さんにお伝えしたいと思ひ、掲載させて頂きました。移住された六人の皆さんと責任者の樹本ふみき先生のお話を掲載しようと思った時、いつもの紙面では収まりきらず、A4サイズの別紙一枚が加わったものとなりました。別紙には樹本先生の塾生への思い、移住されてからの思い、これからの大道理への思いがぎゅっと詰まっていますので、こちらもご覧頂けると幸いです。今回は六人の漫画塾生の方々お一人一人にお話を伺いながら、私自身、漫画好きな人間の一人として、皆さんがどのようにして漫画家を志したのか、どんな感じで作品が生み出されているのだろうか、とても興味深く、仕事場を拝見した時、心密かに興奮しました。樹本先生には、大道理に生まれ、野菜作りにも熱心に取り組まれているお話などもお伺いしました。大道理の撮影スポットや写真撮影の技術的なことを教えて頂くなど、日頃からお世話になってるMさんに伴われて、六月、大道理地域内のIさんのサツキをカメラに収めに行つた時に、近くの畑で野菜の苗を植えられている樹本先生に出会いました。別紙で掲載した写真がその時のものです。先生も塾生の皆さんも、夢を実現される決心をされて、熱い思いを持って大道理での新しい生活を始めたことがお話を伺いながら伝わりました。これから皆さんがどのような作品を産み出されるのか、どのような漫画家になられるのか、とても楽しみです。大道理地区でお世話になり始めて一年と少しですが、新しい年度になって、様々な変化が大道理地区で起こっていることを実感します。（山縣あきこ）

【塾生たちへの思い】



池さん 作
小樹本先生の似顔絵

最後に、塾生の皆さんの責任者である樹本ふみきよ先生の塾生の方々への思い、今後の夢についてお聞きしたお話をお届けします。



▲樹本ふみきよ先生。野菜の苗を植えられています

「この度、大道理に移住した塾生六人とは何年も前から付き合いで、ずっと見て来ました。全員能力のある子ばかりで、一〜二年以内にデビューして、漫画雑誌での仕事をすることになると思います。必ず皆、一流になつて活躍してくれると信じています。六人とも自分の課題や、やるべきことが分かっているの、心配していません。全面的に信頼しているの、私は六人の仕事を見守り、一人一人の夢が現実となつていくのを見届けるだけです。

【大好きな農業のこと】

大道理に来てからは、かねてから好きでやりたかった野菜づくりをしています。祖父母が農家なので、小学生の時には田んぼを手伝っていました。苗を田んぼまで運んで行って、投げて渡したり、草取りをしたりするなどの手伝いをしていました。稲刈りは手で刈って、縄で束ねてハゼ掛けをする手作業での稲作でした。宇部に家がありますが、そこでは家庭菜園をしていて、プランターを八十鉢置いて育てていました。野菜を育てることが好きなので、塾生の胃袋を満たすためにも野菜作りをしています！

大道理では、地域のコミュニティの皆さんの温かさを感じます。耕運機も西照寺の重永住職さんのお知り合いより、無償でお願い頂きました。

そのほかにも農作業に使う道具も使えるようにして頂いてから「あげるから使い」と言って持って来て頂きました。

また、畑で作業をしていたら、地域の皆さんが様子を気に来られたり、手伝いに来て下さったりします。

【夢】

夢は塾生全員の子どもを抱くことです。孫みたいに抱っこして写真を撮りたいです。その写真は宝物です。それから皆が一流になつて、トラクターをプレゼントしてくれたりうれしいです。



▲女性陣の職場風景です！

三十年後の大道理を夢に描く

漫画塾生が大道理に入り、それに続いて次の塾生たちなどの若者が大道理に移住して行って、子どもが生まれて、孫が生まれて、三十年後、大道理の人口が増えたらうれしい、という思いを持っています。そして休校になっていく小学校、中学校が復活して、地域に子どもたちの声が響くようになってきたらうれしいです。その頃、今回大道理に入った塾生たちは五十歳代の年齢になって、中心となって動いてくれるのではないかと思います。

自分たちが大道理地区に来られたのは、周南市の中山間地域振興室の菅田さんの力によるものが大きいです。菅田さんが地域の方へ話を持って行って下さり、井上正幸さんや兼平さんたちが力になって下さいました。皆さんには感謝しかありません。」

大道理をよくする会からのお知らせ



▲拾い集められたゴミです！

七月三日に行われた道路一斉清掃では、ご協力いただいた皆様のおかげ様で、沢山のゴミを収集し、綺麗になりました！上の写真は収集したゴミを夢求の里交流館ピロティに集めて置いたものです。ありがとうございます。

